

令和2年度 葛尾村立葛尾小学校だより



きずな

令和2年12月21日 NO.23

葛尾小学校長 伊藤 恒明

重点目標 Let's try! 自分を信じて レベルアップ!!

<https://www.katsurao.org/site/es>

赤い羽根共同募金を行いました！

12月17日（木）、村の社会福祉協議会事務局長の新開様と同福祉活動専門員の金谷様に学校においでいただき、代表の児童から集まった赤い羽根共同募金をお渡ししました。新開様からは「有効に使わせていただきます」と感謝のお言葉をいただきました。

保護者の皆様には、募金に対してご理解とご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。



共同募金とは？

じどう みな よ
(児童の皆さんも読んでみよう)

きょうどうほきん むかし やまふかい
共同募金のルーツは、はるか昔のスイスの山深いまちにあります。

まちには、その日に食べるものもない人たちがいて、教会の牧師さんは心をいためていました。ある日、牧師さんは道ばたに箱をおきました。その箱には、「あたえよ とれよ」と書かれていました。

「食べものがたりていて、だれかにわけあたえることができる人は、箱に食べものやお金を入れなさい。」

「今日、食べるものにもこまっている人は、箱から食べものやお金をもらっていきなさい。」

この箱は、げんざいの募金活動にもつながる、つぎの3つのキーワードでなり立っていました。

一つめは、「とくめい(匿名)」です。きめられただれかを助けるのではなく、助けを必要とするみんなのためにあたえたのです。あたえる人も、自分がだれなのかをあきらかにしなくてもかまいません。

二つめは、「にんい(任意)」です。あたえる人も、とる人も、参加するのは自由です。

そして三つめは、「しんらい(信頼)」。道ばたに箱があれば、どろぼうにとられたり、うそをついてもっていったりしてしまう人もいたかもしれません。だけど、まちの人たちがこの箱のいみをわかって、ほんとうに必要な人のためのものなのだと、おたがいにしんらいあっていたからこそ、なり立ったしくみでした。

(赤い羽根共同募金 HP より引用)

創価学会より本をいただきました

12月16日(水)、創価学会から20冊の本をご寄贈いただきました。当日は、創価学会福島県事務局から2名の方がお越しになりました。創価学会には、継続して本を寄贈していただいております。有効に活用させていただきます。ありがとうございました。



子どもたちには、その日の給食の時間に紹介しました。すでに借りることができるようになっています。

健康講話を行いました



12月18日(金)、給食の時間を使って、養護教諭の高橋恵美先生から「冬休みの健康な生活について」の講話がありました。

恵美先生からは、以下の3つの約束について、具体的に話していただきました。

- ① 規則正しい生活をする
- ② 食べすぎには気をつけよう
- ③ かぜをひかないようにしましょう

ご家庭でもご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

P T Aによる村への予算要望が行われました

12月15日(火)、葛尾小学校・中学校PTAと葛尾幼稚園保護者会より、村に対して次年度の教育に関する事業の継続や予算の確保等について、要望書を提出してきました。

ご多用のところ、代表として要望活動をしていただきました伊藤様、本多様、ありがとうございました。

